



# 緑ヶ丘だより

発行 令和2年2月  
座間市緑ヶ丘地区自治会連合会

## 「令和元年の活動を振り返って」 210 世帯 緑ヶ丘南自治会会長 湯浅一弘

自治会および地区自連新任会長としての10ヶ月が過ぎました。どこの自治会組織でも似たようなものらしいですが、マニュアル的なものは殆どなく、運営の仕方や必要な知識が経験者の個人知になっている中、手探りのような運営でした。

そのような状況なので、個人知を自治会という組織の組織知にすべく、無料のグループウェアソフトにひたすら記録を残してきました。自治会の個別の活動、地区自連としての活動、個々の議事録や運営体制、関連団体とのつながりなども全て残してきたつもりです。経験のない人でも運営できるようにしておく必要があるからです。

様々な活動を通してもう一つ強く感じたことは、「自治会というのは、できる人ができる範囲で活動すべき」ということでした。無理をして、あるいは無理をさせては円滑に運営できません。役員になった方すべてに100%の動きを期待してはいけません。40%でも50%でも、その方ができる範囲でやっていただくことが肝要です。

役員選出のやり方にも限界を感じます。会員の中で、時間的・体力的にできる人にできる範囲でやって頂くことが望ましいと思います。可能な人からひとりでも多く自治会活動に積極的に参加頂く形ができれば、もっと多くの成果を生み出すことができます。そんな考えから、緑ヶ丘南自治会では、役員とイベントサポーターを会員から募集する試みを始めました。すでに2～3名の方に手を挙げて頂いています。この動きをさらに広げて活性化した魅力ある自治会にできればと改めて思っています。

## 「令和二年を迎えて」

専任理事 小野忠信

穏やかな新年を家族と共に迎えました。昨年とは令和の新年号と共に半年間、入退院を繰り返しやっと暮れに退院することが出来ました。

皆様には大変ご迷惑をおかけしました。申し訳ありません。

色々と病院を廻りましたが、なかなか良い解決策が見つからず、第四オペニオンまで受けて、やっと我が家からはるか遠い府中の地で、希望する手術を受けることが出来ました。

昨年米国から日本に導入された新しい術式で施術して頂き、とても元気に新年を迎えることが出来ました。家族も「心臓の手術したことを考えると年越しの食卓に座っているのがまるで嘘のようだ」と申しております。

さて、本年は世界的に環境問題が昨年以上に話題になってくると思います。自分たちでできる環境対策、例えばコンビニのレジ袋をマイエコバッグの使用に変更するとか、ペットボトルの商品は買わないとか、家庭ごみの分別をちゃんとやるとか、それぞれが家庭でできる方法で問題に取り組めば、ほんの少しでも地球の温暖化対策に寄与できるのではなからうかと思っています。

火力発電はCO<sub>2</sub>が発生して悪いとか議論はありますが、まず、自分の身の回りのことから一人一人が真剣に取り組みたいと思います。

私は「今年は健康に気を付け無理を絶対にしない一年にしたい」と思います。是非、皆様にも健康に留意されて素晴らしい一年をお迎えください。

## 「一年を振り返って」

117 世帯

小田急相武台南自治会会長 高田美紀

昨年2月に会長を引き受けることになってから、もうすぐ1年が経とうとしています。会長になってからは、毎月3回会議に出席し、イベントが重なった月には毎週末が自治会の予定で埋まる事もありました。正直なところ、仕事を持ち、小さな子供を育てながら家事に追われる主婦には大変な事が多かったです。それでも、地区自連会長や他自治会長、今年度役員の皆様のお力添えをいただきながら、なんとか活動を続けてきました。

1年を通して感じたことは「子供たちの笑顔」です。当地区では昨年度末をもって子供会が解散いたしました。小学生の娘は地域のお友達と楽しめるイベントがなくなって寂しいと言っていました。そんな中参加した市民レクがとても楽しかったようで、

良い笑顔で競技に出場していました。出場する全競技で本気で1位を狙う男の子、参加賞を貰って喜ぶ小さな女の子。みんなとても楽しんでいるのが印象的でした。また、意外だったのは美化デーでも子供たちは大活躍だということです。一生懸命に草を抜き、いっぱいになった大きなゴミ袋を頑張って運んでくれました。普段あまり話す機会のない子と話したり、知らなかった一面を垣間見ることができ嬉しく思いました。そして、活動を通じて今まで関わる事のなかった多くの方々と交流を持ち、顔見知りが増え、視野が広がった1年になったと感じています。

任期も残すところあと2ヶ月程となりました。今後は総会の準備で忙しくなるとは思いますが、最後まで気を抜かず努めていきたいです。また、次年度の役員の方々がスムーズに活動を始められるよう、しっかりと引き継いでいきたいと思ひます。

### 「地域コミュニティの活性化」 169 世帯 第一住宅相武台団地会長 長本昌樹

地域コミュニティが機能していない、衰退していると言われて久しくなります。

一方で、地域を取り巻く環境が大きく変化しているなかで、災害対策や高齢化問題などにおける地域コミュニティに対する期待が高まっています。

1995年に起こった阪神・淡路大震災は、地域に甚大な被害を及ぼしましたが、公共サービスが途絶えたときの地域のつながりや助け合いの必要性を改めて認識する大きなきっかけになりました。いま、いつ起こってもおかしくないと言われている2つの巨大地震が指摘されています。さらに、震災のような非常事態だけではなく、超高齢社会における見守りや生活支援の問題など、地域社会による助け合いの必要性が増しています。

この地域コミュニティを担う核として期待されているのが自治会です。しかし、自治会もまた加入率の低下などから弱体化しています。多くの自治会が地域コミュニティ再生、活性化のため加入率の向上に努めていますが、大きな成果を上げることはできていないようです。

当自治会の加入率は95%を超える水準を維持しています。加入率の高さが地域コミュニティの機能と必ずしも比例するとは言えませんが、地域コミュニティの活性化を推進していくうえで、バロメーターの一つになることは間違いありません。加入率が高いというアドバンテージをもって、地域を元気にするため、住民どうしの絆を強めるため、何をしていくか。当自治会のこれからの課題です。

#### \*地域コミュニティ

一定の地域を基盤とした住民組織、人と人とのつながりであり、そこに暮らす地域住民が構成員となって、地域づくり活動や地域課題の解決等、その地域

に関わる様々な活動を自主的・主体的に展開している団体・組織・集団。

### 「安全・安心の地域づくりは、自治会員の方々の提案から」 176 世帯

さつき自治会会長 堀 丈夫

令和元年度も10か月が経過しました。台風に豪雨と大きな災害の年でもありました。座間市では、特に台風15号では停電に倒木、19号では、暴風雨のため災害対策本部が設置され座間中学校も避難場所に指定されたことでも今回の災害の大きさが分かります。

私達の居住する自治会も震災時の避難場所は、座間中学校が指定されています。今年の「避難所開設訓練」も座間中学校を使わせて頂き行いました。訓練は、基本的には、回数を重ねる毎に進歩します。これからも皆様協力し合いどうあるべきか検討していきます。

私どもの自治会では、昨年度「さつき自治会集会所」の耐震化工事を行いました。建て替えか修繕かで前会長が臨時総会を開き耐震化を決めました。集会所の土地は、市から無償で借り上げています。地形は玉石積みで、南側は道路が下に、北側は道路が上にある段々の土地で、集会所玄関は、東側にあります。集会所に並び西側には、防災備蓄のプレハブ倉庫が二棟あります。地形が玉石積みのため毎年少しずつでは、あるが土が流れ出て仕舞い玉石が浮いて来ます。集会所の耐震工事では、西側の一部の基礎工事を補強しなければなりませんでした。プレハブ倉庫の土台の周辺は、土の流失を防止出来ずに少しずつ侵食されています。会員からは、土留めが必要との声が聞こえます。この度市から「令和2年における地域集会所新增改築事業等補助金の交付要望書の提出について」の文書を受け申請期間に相談したところ工事の見積書を取り寄せ申請手続きをされるようアドバイスを頂きました。見積書で工事費は、長さ7.20mで105,000円との事でした。また市の土木担当者は、当分大丈夫との判断をしていると窓口の担当に回答したことで工事申請は、見送ることにしました。しかし土は、流れ出てしまうので、自治会役員からの提案で土嚢を置いて防ぐことにしました。早速美化デーを利用し実行しました。これで当分の間は、土の流失は、防止出来ると思われまひます。会員皆様からの意見提案を実行することで安全・安心の街創りを進める努力をこれからも進めて行きます。



「私たちの住む町を愛して」 256 世帯  
緑ヶ丘中央自治会会長 野呂瀬秀子

自治会もまとめの時期です。今期の活動を振り返ると、一番の成果は防犯灯14か所の増設ではないかと思えます。11月末に工事が完了しました。防災については会員名簿もなく安否確認の体制もない状態でしたが、各班の安否確認ファイルを作り、会長が全体を把握できる体制も作りました。防災倉庫の支援物資も市からの貸与を申請し、備えを強化しました。又、美化デーの取り組みの中で、「側溝の清掃」は、市の事業であることが分かり、美化デー後道路課に側溝の調査を依頼し、20箇所の清掃を実施しました。美化デーで集める「枯葉・木の枝・土」は処分に税金が使われます。枯れ葉・土を「かにかが沢公園」に撒くことを提案し、公園緑政課の許可を取り実施しました。この交渉の中で、歩道沿いの植栽が枯れていることなどを話すと、アジサイ6株の植栽がされ、又、住民の方が土を補給してくださったり、アジサイや梅の木を寄付してくださったり、町を美しく！そんな思いが広がったようで、とても嬉しく思いました。自治会って何？役員が大変なだけでなんのメリットもない！そんな声も聞こえます。でもこの町は、ここで生まれ育つ子供たちには、遊び、学ぶ大切な故郷であり、それを支える子供会活動。子育てをする若い世代には、保育所・学校・日々の子供たちを見守ってくれる地域活動。そしてこの町で老後を迎える世代には、日々を明るく送れるような老人会のサークル活動等、これら全てが自治会活動です。役員会は会員の皆様の声を聴き、会員は自治会活動に積極的参加し意見を言う。そして必要なことは行政に求める。今後30年以内に70%の確率で起こると予測される大地震、その時私たちの命・財産を守るのは自治会の力だと役員に携わり強く感じました。無関心にならず、力を出し合い、私たちの住む町を愛し良くていきましょう。

「防災、防犯委員として」 23 世帯  
わかば自治会会長 柴田則子

平成31年4月から連合自治会の「防災、防犯委員」の役を担うことになり、自分自身の健康、親の介護など不安の中でのスタートでしたが、ここまでの10か月を皆様のご支援ご協力を得て大過なく行事を遂行することが出来ました。

時代は平成から令和に移り、令和元年10月には恒例の「市民レク」が実行され、日ごろ触れ合うことの少ない他の自治会の皆さまと各自治会企画の競技を共に楽しみました。この触れ合いこそが、自主防災組織として時を問わずにいきなり起こる自然災害に対する地域防災力向上のために大切な取り組みと感じました。さらに11月には、実際に避難所開設

訓練を行ったことにより、被災時におけるリーダーの在り方等訓練の効果が得られたかと思えます。

防犯に関しては防犯講習会、パトロールなどの取り組みを行うことで引き続き犯罪者を寄せ付けない街づくり、これも地域住民の普段の行事等による触れ合いにより顔が見える（分かる）化が重要な因子と成り得る大切なことだと考えております。今後も住民の皆様の防災・防犯意識として『自助』『共助』『公助』の観点から啓発に繋げていけばと願っています。

「自治会活動から学んだこと」 98 世帯  
相武台緑ヶ丘自治会 会長 青木秀則

縁もゆかりもない、この座間の地に住み始めたのは、結婚がきっかけで、私と妻の実家のちょうど中間地点となり、将来、親の見守りをするうえでも、行き来がし易い事から、座間に住む事を決めました。ご縁があり、選んだ町である事から、この町で町内会長を務めさせて頂く事に、とても責任を感じて活動をさせて頂いた一年でした。

正直、町内会長を任される前は、回覧板にもあまり目を通す事も無く、自治会活動には全く、無関心であった為、私に町内会長が務められるか非常に不安で仕方ありませんでした。

自治会活動を行ううえで、常に何事に対しても、勉強をさせて頂く事を第一に考えました。

学校や会社そして地域活動でも共通して言える事です。情報の伝達方法、報告、連絡、相談、そして、コミュニケーションの大切さについて、改めて学びました。

日頃からコミュニケーションが出来ていれば、たとえ災害や困り事が発生しても助け合いにより、スムーズに問題解決が行えると思えます。

自治会が、ワンチームになる事が大事、その為に、市民レク(運動会)などの行事を開催して町のつながりを強化する事が、とても大切だと深く感じました。私達の自治会掲示板は、風が吹けば掲示物が吹き飛ばされ、情報の伝達がうまく行っていなかったが、今年、念願のガラスとびら付きの掲示板に、リニューアルし、行事の案内等の情報が確実に伝えられる様になり、町内の方たちから、見やすくなったと喜ばれました。

もし、この座間の地を選ばなければ、皆様とお会いして、この自治会活動はしていなかったと思うと、人のつながりの大切さを改めて感じる一年でありました。

さて、我が町の町内会での活動としては、近年、単独で考え運営した行事は無く、町内会全体としての繋がりが、非常に薄く感じておりました。

地区自連・地区社協の行事に参加する事で、唯一交流が深められると考え、今年の市民レクでは、参加

者を集める為に、積極的に声掛けを行った結果、多くの方に参加頂きました。

毎年、参加者が少なかった為、他自治会のテントに間借りさせて頂いておりましたが、今年は、自治会のテントを皆さんのご協力のもと、設置する事が出来、交流が深まりました。

また、我が町内会では、防犯パトロールを行う際に、着用する防犯ベストが無く、夜のパトロールは、車から目立ちづらく危ないと感じていた為、防犯ベストの発注を行いました。

これで、安全にパトロールが出来るのと、町内会全体の団結力UPに貢献が、出来れば良いと思います。この一年間、ありがとう御座いました。

### 「自治会・緑ヶ丘地区自連役員等の5年間」 173 世帯 緑ヶ丘六丁目自治会会長 大塚幸伸

六丁目自治会では、毎月の議事録が昔は回覧でしたが各戸配付としました。NHK ラジオ深夜便認知症カフェ・健康・介護・自分史・救命訓練等の講習会、講演会にも参加し講義録を作成して各戸配付、あるものは非自治会員にもお配りし、年間の資源回収の予定表もほぼ全戸配布し協力をお願いしました。勿論、各自連の会長さんにも一部を差し上げました。どれだけ活用されたかは分かりませんが！テレビ番組の良いものはCD録画して各班に回覧して情報の共有化を図りました。

地区自連では1年目は会計担当、次の3年間は広報担当(緑ヶ丘だよりのとりまとめ)、今期は会計監査の5年間でした。もの言う役員でした？

大方の自治会は1年での交代です。我が自治会長も来年からはそのようになると思います。今まで見ていて、残念ながら引継ぎがうまくなされていないように思われました。

「緑ヶ丘だより」が市自連のHPに掲載されていること、どんど焼きたき火の火の粉で衣類がこげる恐れのあることの注意等です。

毎月第1・第2・第3土曜日夕方は社協・地区自連・地元自治会の定例役員会です。社協とも5年間の関わりを持ちました。

ふれあいの集い・レクのパン食い競争・どんど焼きの行事です。約10名体制が平成29年4月に規約改正をして各自治会会長・老人会・諸組織の代表等に拡大し42名程に役員を増やしました。我が自治会もこれにより会長が社協の役員になることの規約改正を行いました。しかし専任の社協役員を出しているため会長はN02、手が足りない時の応援要員と理解し毎月の定例会には今年度は出席していませんが・・・。

災害時避難行動要支援者名簿が29年度から自治会長にももらえるようになりましたが、今年度は自治

会会員4名、非会員2名でした。

該当班長には連絡をしましたが、訪問はしていません。災害時には、会員が優先されます。

またいざという時のための確約は出来ません。

避難行動要支援者名簿の主な対象者は、支援ガイドによりますと、ひとり暮らし高齢者又は高齢者世帯(65歳以上)等となっていますが、前回「緑ヶ丘だより」・緑ヶ丘社会福祉協議会便りにおいてどう言う訳か、ひとり暮らしがぬけて表記されていました。

どちらも訂正文を出さないようなので最後の仕事としてこれを指摘しておきます。

任期2年の健康さま普及委員も本年度で終了します。いろいろな人々と出会えました。

本の紹介 治山・治水の話です、是非一読を。

富山和子著「水と緑と土」 中公新書

幸田 文著「崩(くず)れ」 講談社文庫

### 「最近の自然災害について」 135 世帯 新緑ヶ丘自治会 田野口 勝彦

9月9日午前3時前に三浦半島沖に上陸した台風15号は、送電線や電柱等をなぎ倒し、93万戸の停電と12万戸の断水などの大きな被害を与えました。さらに、追い打ちをかけるように10月12日に東海地方に上陸した台風19号は、東日本の広範囲に記録的な豪雨をもたらし、多摩川や阿武隈川といった主要河川の氾濫・堤防決壊を引き起こしました。

今まで、九州や中国、四国地方に上陸していた大型の台風が関東地方にも頻繁に上陸し、今まで警戒していた大地震以外にも様々な備えや警戒が必要となってきています。

特に、座間市のような河岸段丘に広がる緑地や盛り土や切土などの大規模開発を行った場所は、どのような災害が発生するかの予測も大変難しいといえます。被害の発生を最小限にするための事前の取組みや備えも必要となってきています。

河川の洪水・土砂災害に係る防災情報の伝え方も避難情報にレベル1から5段階の警戒レベルを用いて発令されるようになりました。住居や学校、勤務場所が「洪水浸水想定区域」や「土砂災害警戒区域」に含まれる場所なのか、また、避難情報が発令された場合の「広域避難場所」がどこなのかを理解し、停電や断水に備え懐中電灯や飲用水の備蓄など「自分の命は自ら守る意識を持って、気象情報や市からの情報をもとに、適切な行動をとっていく」ことが必要となっています。

自治会としても、これまでも自然災害等に対し、情報提供や種々の防災、減災訓練を実施してきましたが、今後とも繰り返し、実施していきたいと考えています。